

第3学年国語科学習指導案

対象 3年1組 35名

授業者 相川 雅子

対象 3年2組 35名

授業者 大塚 凌平

対象 3年3組 35名

授業者 大塚 美帆

- 1 単元名 豆太ノートをつくって交流しよう
教材名 「モチモチの木」

2 単元の目標

- ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じたことなどに違いがあることに気付くことができる。(思考力・判断力・表現力等)
- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにすることができる。(知識・技能)
- 言葉がもつよさに気付き、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力・人間性等)

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。	① 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。	① 進んで文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

4 研究主題に迫る工夫や手立て

(1) 主体的に学び続ける児童の育成のために【見通すことについて】

① 児童と作る学習計画

- ・単元のまとめとして読み取ったことを表現する方法を自分で設定するようにする。児童一人一人が自分のゴールに向かうことで、主体的に読み進めていけるようにする。
- ・年間を通し、「読むこと」の学習計画を自分で立てる活動に取り組んでいくことで、「何のために読むのか」「どのようなことを読み取りたいのか」という意識を高めていく。年度当初、国語の「読むことの」の学習を進め方が分からないという児童の声が多かった。学習計画を立てる経験を積ませることで、「読むこと」の学習への見通しをもたせ、自分で学習を進める力を付けていく。

② 見通しの視覚化

児童と共に立てた学習計画を毎時間掲示できるようにする。

③ 教科の特性、発達の段階に合わせた工夫

- ・年間を通して、「読むこと」の学習活動にノート作りを取り入れることで、まず自分の読みをしっかりともてるようにする。毎時間の学習でノート作りを活動の中心におくことで、ノートへ書き込んだり、見返したりしながら、場面の移り変わりと結び付けて読み進められるようにする。
- ・経験を重ねるごとに、ノートをより良く作りたいという意欲を高める。まだ、まとめ方がわからない児童が多いので、様々なノートのまとめ方をタブレット端末等で例示してきた。「春風をたどって」では、ノートのまとめ方を教師が示し、自分でノート作りをした。「まいごのかぎ」「ちいちゃんのかげおくり」では、主人公の心情変化が分かるようなまとめ方として、心情曲線等を選択肢として例示した。「三年とうげ」では、これまでの学習経験を活かし、場面にふさわしいまとめ方を選択させて取り組んだ。また、友達のノートをタブレット端末に保存して参考にすることで、自分で学習を進める力を広げ高めてきた。

(2) 主体的に学び続ける児童の育成のために【振り返ることについて】

④ 振り返りの観点を踏まえた話型や項目

1. 学習内容の確認	分かったこと（知識・技能）【概念・操作・習熟】
2. 学習内容を現在や過去の学習内容と関係付けたり一般化したりする	もっと知りたいこと（思考・判断・表現等の力）【活用】 今日の学びのつながり（主体的に学習に取り組む態度）【関連付け】
3. 学習内容を自らとつなげ自己変容の自覚する	できるようになったこと（主体的に学習に取り組む態度）【自己変容】 学び方・方法（主体的に学習に取り組む態度）【学び方の自覚】

単元の終わりの振り返りにおいては、学びの振り返りの話型を示し、単元全体の学習の振り返りをノートに書く活動を設定する。

⑤ 振り返りのしかたとタイミング

- ・ 毎時間、個人でのノート作りの後、グループで交流しさらに読みを深められるようにする。この協働的な活動で感じたことを共有したり、違いがあることに気付いたりできるようにする。
- ・ 交流を通して読み深まったことを場面ごとにホワイトボードに掲示する。掲示されたものを読んで感じたことや考えたこと、気付いたことをいつでもホワイトボードに書き込めるようにする。ホワイトボードでの交流によって前の場面を読み返すことで気付きを増やし、一人一人の読みの振り返りに繋がることを狙っている。

(3) 主体的に学ぶ児童の育成のために【共通することについて】

① eポートフォリオの活用

- ・ 年間を通して「読むこと」の表現活動の作品や、友達のマイノートの例をタブレット端末に保存していつでも見返せるようにし、次の活動へ生かせるようにする。

5 単元の指導計画と評価計画（全10時間）

次	時	・主な学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準
1	1	・教師の範読を聞き、物語の内容を把握する。 ・範読を聞いた感想を交流する。	○部屋を真っ暗にして暗さを体験し、物語への想像を掻き立てる。 ○絵本には教科書にない絵があるので、美しい切り絵をスクリーンに映しながら読み聞かせをし、想像を広げさせる。	◇物語に関心をもち、進んで感想を交流し、作品を読もうとしている。 【主】ウ-①
	2	・場面の展開や登場人物を確かめる。	○物語の設定を確かめるとともに、登場人物の会話や行動から、展開をとらえさせる。 ○物語の主人公は豆太であり、主人公を変容させる鍵となる人物はじさまであることをつかませる。	◇語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 【知・技】ア-① ・主人公の行動について場面の移り変わりと結び付けて読み、物語の展開をつかんでいる。 【思・判・表】イ-①
	3 (3組)	・学習計画を立てる。	豆太ノートをつくって交流しよう。 ○主人公（豆太）と主人公の変容に大きく関わる中心人物（じさま）を共通理解し、読みの中心とすることを確認する。 ○活動のゴールで自分の読みを表現する方法を決めさせる。表現方法はタブレット端末で例示し、いつでも確認できるようにする。	・学習計画を立て、見通しをもって作品を読もうとしている。 【主】ウ-①
2	4 (2組)	・「おくびょう豆太」の場面を読み、行動や会話、様子を確かめ、豆太の人物像を想像する。	○読み取ったことや自分の考えを自分の方法でノートにまとめる。（豆太ノート作り） ○豆太の人物像を叙述をもとに考えるように促す。 ○ノートのまとめ方をタブレット端末で例示し、難しい児童は、いつでも確認しながら作れるようにする。 ○ノート作りのあとにグループで交流する活動を設定したり、ホワイトボードを活用したりし、感じたことに違いがあることに気付かせる。 ○今後の学習に生かしたいノートや板書を自分で選んで写真に撮っておく。	・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 【思・判・表】イ-① ・考えたことを進んで伝え合おうとしている。 【主】ウ-①

5	・「やい、木い」「霜月二十日のぼん」の場面を読み、行動や会話、様子を確かめ、豆太の気持ちを想像する。	○読み取ったことや自分の考えを自分の方法でノートにまとめる。(豆太ノート作り) ○ノートのまとめ方をタブレット端末で例示し、難しい児童は、いつでも確認しながら作れるようにする。 ○「やい、木い」と「霜月二十日のぼん」の場面の豆太の様子を対比させるように促す。 ○ノート作りのあとにグループで交流する活動を設定したり、ホワイトボードを活用したりし、感じたことに違いがあることに気付かせる。 ○今後の学習に生かしたいノートや板書を自分で選んで写真に撮っておく。
6 (1組)	・「豆太は見た」の場面の前半を読み、行動や会話、様子を確かめ、豆太の気持ちを想像する。	○読み取ったことや自分の考えを自分の方法でノートにまとめる。(豆太ノート作り) ○豆太の様子が分かる叙述に着目して読むように促し、変容について考えをさせる。 ○ノートのまとめ方をタブレット端末で例示し、難しい児童は、いつでも確認しながら作れるようにする。 ○ノート作りのあとにグループで交流する活動を設定したり、ホワイトボードを活用したりし、感じたことに違いがあることに気付かせる。 ○今後の学習に生かしたいノートや板書を自分で選んで写真に撮っておく。
7	・「豆太は見た」の場面の後半を読み、行動や会話、様子を確かめ、豆太の気持ちを想像する。	○読み取ったことや自分の考えを自分の方法でノートにまとめる。(豆太ノート作り) ○「モチモチの木」の灯を見た豆太の心情を想像させる。 ○ノートのまとめ方をタブレット端末で例示し、難しい児童は、いつでも確認しながら作れるようにする。 ○ノート作りのあとにグループで交流する活動を設定したり、ホワイトボードを活用したりし、感じたことに違いがあることに気付かせる。 ○今後の学習に生かしたいノートや板書を自分で選んで写真に撮っておく。

2	8	・「弱虫でもやさしけりゃ」の場面を読み、豆太が変わったかを考える。	○自分の考えをノートにまとめさせる。(豆太ノート作り) ○物語のはじめと終わりで豆太は変わったのかについて考え交流させる。 ○グループで交流する活動を設定し、感じたことに違いがあることに気付かせる。 ○今後の学習に生かしたいノートや板書を自分で選んで写真に撮っておく。	
	9	・第3時で決めた表現方法で自分の読みを表現する。	○豆太ノートに書いた自分の考えや心に残った表現を生かして、作品作りをさせる。 ○今後の学習に生かしたいノートや板書を自分で選んで写真に撮っておく。 ○今後の学習に生かしたい作品を写真に撮っておく。	・考えたことを進んで伝え合おうとしている。 【主】ウ-① ・感じたことや考えたことを共有し、違いがあることに気付いている。 【思・判・表】イ-②
3	10	・作品を交流する。 ・単元全体の活動を振り返る。	○作品に込めた自分の考えを、対話で交流させ、感じたことに違いがあることに気付かせる。 ○単元を通して身につけたことや学習方法についての気づきをノートに書く。書くことが難しい児童には文型をいくつか示す。 ○単元を通して撮りためた板書やノートの写真をスライドに整理し、今後の国語学習に生かせるようにする。	

6 本時の指導①（3/11 時間 3年3組）

（1）本時の目標

中心人物を確認し、マイゴールを決め、学習計画を立てる。

（2）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導入 5分	1. 本時の活動を確認する。 学習計画を立てよう。	○これまでの物語文の学習経験を思い出すよう声を掛ける。
展開 35分	2. 物語を読み深める上で、 考えていきたい登場人物は 誰か確認する。 3. 学習計画を立てる。 ①場面ごとに考えたいテーマを グループで話し合い、全体で話 し合いをまとめる。 ・豆太はどんな性格なのか。 ・どうして豆太は医者様をよべた のか。 ・豆太にとってじさまはどんな人 物なのか。 ②各場面では、どのように読み進 めていきたいか確認する。 ③学習の最後に自分の読みを表 現する方法（マイゴール）を一 人一人が選択する。 ・気持ちグラフを使おう。 ・登場人物表を作ろう。 ・キーセンテンスをまとめよ う。	○第2時の学習を生かすように声掛けをする。 ○物語を展開させる中心人物は豆太とじさまであることをお さえる。 ○第2時の学習を生かし、各場面でどのように物語が展開し ているかを確認した上で、考えたいテーマを話し合うよう に声を掛ける。 ○決まった内容を今後の学習で掲示できるように大きな画用 紙に記入していく。 ○これまでの物語文の学習経験（マイノート作り）をタブレ ット端末を活用して振り返るように声を掛ける。 ○これまでの物語文の学習経験をタブレット端末を活用して 振り返るとともに、タブレット端末に示したマイゴールの 例を参考に決定するように声を掛ける。 ◇学習計画を立て、見通しをもって作品を読もうとしている。 【主】ウ-①（ノート・発言）
終 末 5 分	4. 本時で立てた学習計画をもと に、次時の活動を確認する。	

6 本時の指導②（4/11 時間 3年2組）

（1）本時の目標

「おくびょう豆太」の場面を読み、行動や会話、様子を確認め、豆太の人物像を想像する

（2）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導入 5分	1. 本時の活動と、読むべき場面を確認する。 豆太はどんな男の子で、じさまはどんな人なのか考えよう。 ・人物紹介のまとめ方にしよう。 ・自分が思ったことも書き込もう。	○第3時で児童と立てた学習計画表を黒板に掲示し、確認する。 ○読むべき場面は「おくびょう豆太」であることを確認する。 ○「豆太ノート」は、参考になるようにこれまでの物語文の学習の経験をタブレット端末で例示する。豆太の人物像をとらえるためにふさわしいノートの形式を自分で選択させる。
展開 35分	自分タイム 2. 自分で選んだまとめ方で「豆太ノート」を作る。 トークタイム 3. ノート作りで読み深めた内容をもとに、グループで自分が想像した人物像について交流する。 4. みんなで話し合いたいテーマを取り上げ、学級全体で考えを交流する。 ・どうして豆太だけがこんなに臆病なのかな。	○自分で進めるのが難しい児童には、タブレット端末に示したノート例を個別に示し、支援する。 ◇「おくびょう豆太」から登場人物の行動や様子を読み取り、人物像を想像して、ノートに書いている。 【思・判・表】イ-①（ノート） ○トークグループは3～4名にする。 ○トークタイムの時間を十分確保する。 ○本文のどこから想像したのかを明らかにして話し合うように指導する。 ○短冊を用意し、豆太とじさまの人物像に迫る叙述を書いて掲示できるようにする。 ○豆太が夜中に一人でせっちんに行けないこと、じさまは起こされるとすぐ目を覚ましてくれることから、豆太は怖がっていること、じさまはかわいがっていることをおさえる。
終末 5分	5. 今後の学習に生かせそうだと思うノートや掲示を自分のタブレット端末で写真にとる。	○ホワイトボードに考えたことや気付いたことを書き込んでよいことを伝える。 ○撮りためたノートや掲示の写真を3次の活動や、今後の「読むこと」の学習に生かせるように声掛けする。

6 本時の指導③（6/11 時間 3年1組）

（1）本時の目標

「豆太は見た」の場面の前半を読み、行動や会話、様子を確認め、豆太の人物像を想像する。

（2）本時の展開

時間	学習活動	○指導上の留意点 配慮事項 ◇評価
導入 5分	1. 本時の活動と、読むべき場面を確認する。 おくびょうな豆太がどんな気持ちで医者様を呼びに行ったのか考えよう。 ・豆太の気持ちが大きく変わるね。 ・気持ちの変化が分かるまとめ方にしよう。	○第3時で児童と立てた学習計画表を黒板に掲示し、確認する。 ○読むべき場面は「豆太は見た」の前半（P 1 2 9 L 7 まで）であることを確認する。 ○「豆太ノート」のまとめ方は、参考になるようにこれまでの物語文の学習の経験をタブレット端末で例示する。豆太の心情の変化を表現するのにふさわしいノートの形式を自分で選択させる。
展開 35分	自分タイム 2. 自分で選んだまとめ方で「豆太ノート」を作る。 トークタイム 3. ノート作りで読み深めたことをもとに、グループで豆太の心情変化について想像したことを交流する。 4. みんなで話し合いたいテーマを取り上げ、学級全体で考えを交流する。 ・豆太はどんな気持ちで走ったのかな。 ・どうしてこんな勇気がでたのだろう。	○自分で進めるのが難しい児童には、タブレット端末に示したノート例を個別に示し、支援する。 ◇「豆太は見た」の場面を読んで、登場人物の行動や様子を読み取り、豆太の気持ちを想像してノートに書いている。 【思・判・表】イ-①（ノート） ○トークグループは3～4名にする。 ○トークタイムの時間を十分確保する。 ○本文のどこから想像したのかを明らかにして話し合うように指導する。 ○短冊を用意し、豆太の心情変化に迫る叙述を書いて掲示ようにする。 ○おくびょうな豆太がどのような思いで医者様を呼びに行ったのか想像できる叙述に注目させる。
終末 5分	5. 今後の学習に生かせそうだと思うノートや掲示を自分のタブレット端末で写真にとる。	○ホワイトボードに考えたことや気付いたことを書き込んでよいことを伝える。 ○撮りためたノートや掲示の写真を3次の活動や、今後の「読むこと」の学習に生かせるように声掛けする。

